はるやま はるお
晴山 晴緒
えろ♥めるへん
ラプンツェル
第1巻

えろ♥めるへん

ラプンツェル

第1巻

CONTENTS

えろ◆めるへん ラプンツェル 第1話

えろ◆めるへん ラプンツェル 第2話

晴山晴緒

※この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

えろ♡めるへん

ラプンツェル

第１話

昔々 あるところ
ある国の森の奥深く
天まで届くほどの
巨大な塔がありました
その塔には
ラプンツェルという
少女が住んでいるとの
ことですが…
ふう…
やっと
ついた…
どれだけ人里(ひとざと)
離れてるんだよ
こんなところに
本当に人が
住んでるのか?(い)
おーい
誰かー
誰か
いませんかー
だれかー
…

誰かいたら返事してくれー
しーん
……
ちっ
こんな古びた塔に人なんか住んでるわけないじゃないか！
あの男…適当なこと言いやがって！
あーもうこんな森の奥まで来てくたびれ損だよ！
……静かだなぁ…
木のざわめく音しかしない
気が滅入りそうだよ
スゥ…

ふう…
さてとそろそろ帰るか
下手(へた)すると野宿だなこりゃ
…待って
あ
あ
あの…

こ
こんにちは……
…いた…
こんな人気のない森の奥に
金髪の美少女……！
えぇーと…こんにちは！僕はヴィルヘルム！
実は帰り道が分からなくなってしまったんだ！
中に入れてくれると嬉しいな！
このまま夜になったら狼に襲われてしまうかもしれない！
お願いだよ！
……

分かったわ…
え
ええと…
もしかして
髪の毛につかまれ
ってこと？
髪なが…!!
そそれは
ちょっと無理
なんじゃない
かなぁ！
この塔って
扉とか
ないのかい？
そこを開けて
もらえれば…
…
わ
わ
わ
うわあああああああ
ぶつかるっ…！

…この塔に扉はないの 誰も入ってこられないように
ヒタッ
スポーン
ぎゃ――っ!!
は…はじめまして…
私はラプンツェルっていうの…
…
はじめまして…斬新な挨拶ありがとう…
斬新？わたし斬新だったかしら！
ううん…普通 そんな風に髪を動かせないしね
そう…そう…よね…

あの…さっきの歌
すばらしかったわ！
もう一度
歌ってくれる？
…もちろん！
お安いご用さ！
ただ その前に
聞きたいことが
あるんだ
申し訳ないけど
長居するつもりは
ないんだ…
君は
〝魔法のナミダ〟を
知ってるかい？
〝魔法の
ナミダ〟？
そう
聞いたこと
ないかな
世界のどこかに
あるっていう
不思議な力を持った
〝魔法のナミダ〟
僕はそれを
どうしても手に
入れなくちゃ
ならない
ある人から
この塔にあるって
聞いてきたん
だけど…
残念だけど…
ここにはそんな
ものないわ
そう…
どういう
ことだ？

あいつは確かにこの塔にあるって言っていたんだ
でもこの子は嘘をついてるようには見えない
ほかに可能性があるとすれば…
ギュルギュル
ギュルギュル
!!?
ど…どうかした?
私人間と話したことないからたのしくって!
ええ!!?
それって生まれたときから…じゃないよね?
いいえ 生まれたときからよ
!!
じゃあ君はずっと一人でこの塔に…
いいえ

ファデが一緒よ
今日は出かけて
いるけれど
なんだ…ちゃんと
人と話したこと
あるじゃない
ううん
ファデは人間じゃ
ないんですって
そ そう
ペットか
なにかなの
かな
なんなんだ
一体…
ところでさ
ラプンツェル
ここに
一人きりって
ことは君は
胸を
ときめかせるような
恋もしたことが
ないんだ
もったい
ないな
こんなに
可愛いのに
可能性が
あるとすれば…
この子の涙が
〝魔法のナミダ〟って
ことはないかな…
？
ヴィルヘルム
なあに？
歌ってくれるの？
うん？
そうだね…

歌うより
もっと楽しいこと
…しようか
…
もっと
楽しいこと？
うん
てっとり早く
泣かせてみようか
どんな…
あ…
…
あ…

はあっ
あ…
ヴィル…
へ…
!!!!!!!
ズドーン
ラプンツェル!?
あ…
ヴィルヘルム
なに？
いまの…
これが…
楽しいこと
なの？
そ
ふふ
ぽい
楽しく
なかった？
かわいい
じゃない
…分から
ないわ…

この調子ならうまくいきそうだな
スル…
シュルル…
こういう遊びがはやってるの？
そうだね 僕らくらいの年になればみんなしてるさ
…なにしてるの？
服を脱いでする遊びなんだ
そうなのじゃあ…
自分で脱ぐわーっ
ぽぽーい
ぽいぽいぽいっ
全部？
うん…そうだね
びよーん
脱いだわーっ!!!
色気のカケラもないなあ
でも…

ラプンツェル…
やめてよヴィル…
チュ
チュッ
あ
くすぐったいわヴィルヘルム
ふふ
あッ!?
…悪くないね…
あ…
や
いや…

あっ
や
ちゅっ
いや…
なんかそれ
変な かんじ…
ちゅく
ちゅる
ね…
ヴィルヘルム
これ…本当に
ただの遊びなの？
ヴィルヘルム
ってば…
…ねぇ
ラプンツェル
見てよ
君の乳首
こんなに
とがっちゃってさ
エッチなんだな
ええっち…？
ぷっ
そう
もっと僕に
いじってほしいって
言ってる…
もっともっと…
キモチよくして
あげる…
ペロ…
でも…
大丈夫
アッ!?

僕に任せて
あダメ…そこ
汚い…おしっこ出るところ…
うーん…おしっこ出るところとはちょっと違うね
えそうなの？
ねぇ…これ…本当はいけないことじゃないの？
…あ
……
そんなことないさ
遊びとはちょっと違うかもしれないけど
誰もが人生で一度は経験するポピュラーな行為だからね…
そ、そう！
それじゃあ悪いことじゃないのね！よかった！

そう
だから そんなに
気にすること ないよ
うーん
なんだか
ちょっと
罪悪感
でも
ごめんよ
こっちも
命が
かかって
るんでね！
え
いくよ…
ラプンツェル
なに…
ヴィル…
…
あ…

あ…なにか
はいって…
ん？
ぼくの
ふあぁッ!?
おち●ち●かな
う…すごい締めつけ
押し出される…ッ
ラプンツェル…力抜いて…
あッ
ハッ
セク
ア…
いやッ
あ…あ
セクン
あ
あっ
あっ
あ
あ
あ
あッ
あアッ
いや…アッ！
アッ
あウ
ニテ…
チュク
チュクッ
ビクッ！
ビクン！
ビクッ！

…あッ
あっ
イヤッ！
アっ
へ 変に なっちゃ…
ふあ
ああッ！
アッ！
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
アッ！
いや
やア…
やっ
ラプンツェル…
んっ
やば… キモチい…
ふっ
んっ
ンッ
ふアッ
は…
はあっ
ア…
あっ
あぁ
アッ
…出ろ！
涙ッ…
ヴィル…
へ…
あっ
ラプンツェル…
ヴィ
ヴィルへ…
あ… イキそう…ッ
んっ！
ヴィル
ヘル…ッ
ヴィル…
ヘルムッ…
ヴィル
ヘルム！

痛い…
……
ヴィルヘルム？
あっ!!？
ずうぅぅぅん
わりとモテるしマメなほうで女の子に評判のこの僕がッッ!!!!
ヴィ
ヴィルヘルム？
ヴィルヘルムぅぅぅぅッ!？

じゃあ
ラプンツェル…
僕は帰るよ
ええ
ええ…
あの…本当に
大丈夫？
ヴィルヘルム…

あ…うん
本当になんでも
ないんだ
気に
しないで
そ
そう…
しい

……
ああの…
ヴィル
ヘルム…

あの…
これでお別れ…
なのよね？
もうここに
来ることはない…
のよね…

どう…かな
もしかしたらまた
来ることもあるかも
しれないね
……
あ～……
森で狩りをする
ときにでも寄って
みようかな
ごめんね～
そ
そう！

じゃあ私
待ってるわね！
う
ああ…罪悪感が…っ
うん…
またねヴィルヘルムーッ!!
まったく…散々だったな
でも
まぁ悪くは
ふふ
なかったかな…

おやおや
思い出し笑いとはいいご身分ですね
びくっ
…その声は…
こんにちはヴィルヘルム王子
目的のものは手に入れてきましたか？

オトメのピンクな恋ゴコロ
セキラ文庫

えろ♥めるへん

ラプンツェル

第２話

数日前——
〝魔法のナミダ〟
さあ…早く見せてください
森で狩りをしているときに出会ったこの男——
名前も正体も一切不明だけど
人間じゃない…かもしれない
あのさ…あんた本当に何者？
羽ほどこにいたんだよ
それにその〝魔法のナミダ〟がなんなのか教えてくれないことには探しようがないじゃないか
いいきなり驚かさないでくれよ！
あなたがボーッとしていただけではありませんか
それでどうなんです肝心のものは

初めて会ったとき言ったじゃありませんか
私は俗に「悪魔」と呼ばれる者
そしてこの世界の創造主ですよ
ボクはご主人様の使い魔だよ〜
もっ
もっ
…悪魔が神様だなんてゾッとしないね
これは心外な
その神様に矢を射たあなたをタダで許して差し上げたというのに
使いっぱしりにしてるじゃないか!!
新種の鳥か!?
それで〝魔法のナミダ〟は？
…そんなの無いって言われたよ
ぱくっ
物じゃない可能性も考えて手を尽くしたけどダメだった
おや？

語弊が ありますね
〝手を尽くした〟とは
成功した場合に使う言葉では？
…え？
いっ。
え？
ええっと
なんのことだか…
このど下手クソが…
処女にあんな激しい腰使いはご法度ですよ
わ～～～～！
なんでなんで！
なんで知ってるんだよ～～～～!!
創造主ですからねぇ
ご主人様～
次は僕をあの塔に行かせてくださいよ～
淫魔の僕の●●●にかかればどんな淑女もヌルヌルのトロトロのアヘアヘですよ
淫魔!!?
アヘアヘ
そうですねぇ…確かにこちらの甲斐性無しにやらせるよりはるかに効率がいいでしょうねぇ
だダメだ!!!
あ あ
はっ!!

とにかく！
あそこには
〝魔法のナミダ〟なんて
ものは なかったよ！
なにをムキに
なってんだ
僕は…
それに僕も
こんなくだらないことに
付き合ってるほど
暇じゃないんだ
もう
ほっといてくれ！
帰る！
……
うっ…
く…
あ…
は…
あ…
…ッ
困った坊や
ですね
だから 最初から
言ってるでしょう
私は創造主
私の命令は絶対なのです
あなたは私から
逃(のが)れることは
できないのですよ

ムリムリッ
逆らえば殺しま
…とにかく
もう一度あの塔に行きなさい
〝魔法のナミダ〟の正体をつきとめるのもあなたの役目ですよ
期待していますよヴィルヘルム
ねぇ??ご主人様

今回はいつもの〝コレクション集め〟はしないんですか？
もちろん一番の目的はそちらですよ
未知のアイテム探しは今回私がわざと物語に組み入れたのです
「白雪姫」
「赤ずきん」
「マッチ売りの少女」
「ヘンゼルとグレーテル」
エトセトラ
エトセトラ
彼らは順調に私の手元に集まりつつあります
〝魔法のナミダ〟なんて我ながら陳腐な名前をつけたものですが
私にすら正体不明な〝なにか〟を投じることでこの物語にスパイスをきかせる——そういう趣向です
てて
なるほどー

しかし あのヘナチョコ王子は
うまいことやりますかね？
さあ…それは
彼次第でしょうね
ぐおおおお
あっ!!!!
ご主人様！
お腹がすいて これ以上
飛べません!!
また
ですか
行き倒れたら
さっき下にいた
老婆とでもヤッて
エネルギーチャージ
しなさい
私は
知りません
ふらふら～
この 人でなし!!
悪魔
ですから
ぱっ？
うふふふふ～

きゃ〜〜〜っ!!
どうしようどうしよう
どうしようわたし!!
ゴロゴロゴロゴロゴロゴロ
はじめてはじめてはじめて
人間の男の子と喋っちゃった!!
不思議…
ヴィルヘルムが
帰ってからもずっと
ドキドキしてる
はぁ
はぁ
はぁ
ドキン
ドキン…
こんなの
初めて…
びくっ!
……
ラ〜プン
ツェル〜
ラプン
ツェル
や〜〜〜
今帰ったよ
ラプンツェル〜〜〜
さあさあ…
さあ…お前の髪を
下ろして私を
引っ張りあげて
おくれや〜い
それに自分で
登ったほうが
早いじゃない
…もう!
また私を
驚かせたわね!

ファデ！
キュオン!!!
チカッ
チカッ
アアアアアアアア
キュン！
キュン！
キュン！
キュン！
…そうだね
確かにその方が
ずっと早い

……
おかえりなさい
ファデ！
帰りが遅くなって
ごめんよ
ラフンツェル
珍しい花を
見つけてね
君にあげようと思って
摘んでいたら日が
暮れてしまったんだ
これ…
本で
見たわ危険な
場所にしか
咲かない花よ
どこも怪我
してない？
へへ
僕に
とっては
朝飯前さ
それに
君の
ためなら
なんだって

ありがとう
ファデ
本当にいつも
感謝してるわ…
ギュ…
そうだ
ラプンツェル！
なにか
変わったことは
なかったかい？
ぎくっ!!
どどうして？
ついさっき
変なものを
見たんだよ！
翼の生えた
人間さ！
一瞬だけど
見間違いじゃ
ない
ものすごいスピードで
空を突っ切って
行ったんだ！

もし奴らが
そんな能力を手に
入れたのなら
一大事だよ！
この場所が
知られてしまうかも
でも
引っ越すにしても
どこへ行ったら
いいのか…
ああ クソッ！
…ファデは
人間が大嫌い
私の両親が
人とは違う能力を
持って生まれた
私のことを
気持ち悪がって
いつも いじめて
いたから
なんですって

ファデがこの塔で
私を育てて
くれなかったら
今頃どうなって
いたか…
それからずっと
また酷い目に
遭わないように
守ってくれて
いるの
ヴィルヘルムのこと…
ファデには言わない方が
いいわよね…
でも…正直に
話した方が…
でもでも！
もし怒らせてしまったら
もう会っちゃダメって
言われるだろうし…
どうしよう…
あ
これだわ
ええと…
セックスは生物が
繁殖してゆくために
必要不可欠な
行為であり
卵子と精子が
結合し妊娠すると
女性は約十ヶ月の
あいだ胎内で
胎児を育て…って

こ こここここ
子供!!
わたし子供
作っちゃったの!!?
えーと
えーと
あ 必ず妊娠
するわけじゃ
ないのね
『ですが避妊せずに
膣内で射精しなくても
妊娠の可能性は
十分にあります』!!?
赤ちゃん…
もし赤ちゃんが
できてたら
どうしよう
産むの?
でもヴィルヘルムは
射精…しなかったから
可能性は低いと
思うけど…でも…
…ああ…
ヴィルヘルムの様子が
おかしかったのは
私に「痛い」って
言われて
自信を
なくしちゃった
からなのね…

……
パタン
痛…かった…
だけ？
ううん
ほかにも なんて
いうかこう…
くすぐったい
っていうか
とにかく
むに
……
変な
感じ…

…あ
ゴソ…
本当だ
本当に乳首って
プニ
プニ
硬くなる…のね
それから
興奮すると
ここ…
本当に
膨らんで
くる…のね
……
ん
クプ
クチュ
クプ
…
…すごい
ヌルヌルしてる
私のここ…
ネチャ
本当にこんなの
出るんだ…

男の人のアレ…を挿れる準備ができましたよって…という証拠…
ヴィルヘルムのって…？
どんな感じだったかしら…？
大きくて…熱くて…
奥の方まで入ったり出たりして
たまに掻き回したり…
…あのまま射精…されてたらどんな感じだったかしら
ん
私の中にヴィルヘルムの精液…出されるってどんな感じ…？
んっ
ヴィルヘルム…

ヴィルヘルム
ラプンツェル？
ガチャ
キャあああ
ファッファファ
どファデ!?
どうしたの!?
あああああ
んー…
トイレに行こうと
思ったら君が
いなかったから…
あれ？どうして
着替えてるの？
きっ
きがえ…
そう着替えてるの！
ちょっと飲み物を
こぼしちゃって…
ふーん…
ガタガタ
ドゥー
ラプンツェル!!?
だ 大丈…

…あ
へへいき…
なんともないわ
ファデ

…き 気をつけ
なくちゃね…

うん
あれ?
なんだ?
そうだよ
頭を打ったりしたら
大変だからね

早く
部屋に戻って
寝よう!!
そそうね!!
なんだ
これ!?

なんでボクはこんなにドキドキしてるんだ？
じゃじゃあおやすみ！ラプンツェル！
おおやすみなさいファデ！
あ～びっくりした…
わ…これってあそこのにおい？
くん
知らなかった
私の体…こんな風になってたなんて
そういえばヴィルヘルム…私のことエッチって言ってた！
はは はずかしい…
どうしよう私！これ以上エッチな体になったらだけどあれってすごくやみつきになりそうな感じで…

…ヴィルヘルム
今ごろ
なにしてるかしら
次は いつ
会えるかしら?
ヴィルヘルム…
…はぁ
もう一度 あの子に
会いに行きますか…
やっぱり ここ
遠すぎ
でも
仕方ないね

本作品を無断で転載することは
著作権法上の例外を除き、禁じられています。